

## 会 議 録

### 1 会議の名称

令和元年度 第4回 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会  
第7回 研究会 合同会議

2 会議日時 令和元年12月12日(木)午後7時00分から午後9時00分まで

3 開催場所 川根本町山村開発センター 2階 大会議室

### 4 出席した者の氏名

協議会委員 鳥居進委員、太田たみ子委員、森下洋一委員、野口直次委員、  
森下仁委員、鈴木絵理委員、上野奈世美委員、松下陽子委員、  
笹木秀明委員、

※ 山下初副会長、井澤史子委員は欠席。

研究会委員 梅澤収委員長、山下斉副委員長、鈴木憲委員、石川泰宏委員、  
西澤浩美委員、松下文代委員、小澤いつ子委員、新林章輝委員、

事務局 大橋慶士教育長、森下育昭教育総務課長、  
宮島明利課長補佐兼教育総務室長兼管理主事、和田美代史指導主事  
ほか 教育総務課職員1名

傍聴者 3名

### 5 議題

協議(報告事項)

#### (1) あいさつ

- ・ 大橋慶士教育長

#### (2) 協議事項

- ① 「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」報告
- ② 川根本町の物的・人的教育資源を最大限に活かすための教育のあり方について
- ③ 質疑応答

### 6 会議資料の名称

「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」(報告)(資料1)

川根本町の教育～人口減少地域における特色ある教育づくり～ 町民説明資料(資料2)

町の教育に係る意見交換会 資料(資料3)

(令和元年11月版) 川根本町で学ぼう ～小規模校の良さを生かした特色ある学校教育～  
(資料4)

川根本町の地域・学校活性化の構想案(静岡大学教育学部 梅澤収)(資料5)

### 7 発言の内容

#### (1) 協議会会長あいさつ

- ・ 大橋慶士教育長

第4回教育のあり方検討協議会・第7回研究会合同会議に出席いただきありがとうございます。この  
お仕事でお疲れのところ本日の協議会研究会合同会議よろしくお願ひしたい。この

会議ですが、調べたところ、平成30年7月20日に第1回の合同会議を開催し、研究会は、今日で7回目を迎え、協議会は今日で4回目となる。そしてその間に川根本町の教育に係る意見交換会を開催した。これは全6日で14回を開催してそれぞれ保護者の方地域の方にご意見等を伺い、意見交換会ということで実施した。それらを踏まえて今日は静岡大学の梅澤先生から今までの経緯を踏まえて提案をいただきご協議をいただく。私自身も色々考えた中で一つ思ったのは地域の物的・人的教育資源を最大限に活かすという考えについて、私の専門は会計学であるが、その中で、例えば産業クラスターという考え方があるが、静岡県には食のフードサイエンス、そして西には三つの産業があつてそれらを核にして集積をするという考え方がある。学校のほうもインクルーシブ教育の中で、スクールクラスターという考え方がある。教育に関しての資源というものを組み合わせるといふ考え方もあると思う。ですから、教育のほうも、これからは単純な統廃合、つまり規模を拡大するとかという問題ではなく、地域の中にある教育資源というものをいくつかに組み合わせをしながら最大限の教育を展開する、梅澤先生の言葉で言えば、ESD、持続可能な社会のための教育を展開することが必要であると思う。そういう観点から今後この問題を考えていきたいと思う。この後梅澤先生から提案があるので、それについての皆さんのご意見を伺いながら進めていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

## (2) 協議事項

### ①「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」報告について

事務局より、資料1に沿って意見交換会参加者からの意見（抜粋）を報告

- ・川根本町で生まれる数を増やすことも絶対必要だけど、外にいる人たちに転入してもらう流れをつくらないといけない。例えば、ネット環境をそろえたり、語学学習の環境を整えたり、一貫教育を行ったりするなど、今後も魅力的な教育を展開するということはよくわかったので、それ以外に例えば川根本町独自でここでしか学べないことや、川根本町の学校で学ぶメリットがあるという教育を展開する必要がある。何が重要かと考えた時、使える最大の武器は自然や環境だと思う。川根本町も森と水の番人っていうテーマを掲げている以上、そういう人材を目指して子どもたちを育て上げていくっていうのを全面に打ち出し、小中高まで一貫してそのテーマで、教育をしていく。テーマを掲げて、みんなで取り組んでいくことができるのが、川根本町のメリットだと思う。
- ・川根本町を選択した理由の一つは、自分が家族を築き、子どもが生まれた時に、どのような環境を用意できるかと考えた上で、井川では絶対無理だと判断した。川根本町はまだ復活する可能性があると思ひ、川根本町を選んで移り住み店を開いた。
- ・子ども一人に対してこれだけ手厚く教員がつくという環境が用意できたら、それは子どもに学ばせる良い機会、良い環境にもなると思う。例えば、東京から移住先を考えた時、子どもに手厚い教育を施してくれるということは、魅力になると思う。
- ・進学や就職の実績が上がっているのであれば、多分その方向でいいと思う。そのことを町民の皆さんに知ってもらふということはすごく重要だと思うので、もっと広報活動を行ってほ

しいと思っている。

何かしらの個性を育てていくということが今の子どもたちが生きていく上で、すごく重要な部分だと思う。それを生かすという意味では、たくさん子どもたちが通うそこそこの規模の大規模校のやり方よりも、川根本町のような地方の過疎の、小規模の学校で経験したことが、多分将来生きてくると思っている。ぜひ頑張って、いまの規模でもいいので、特色ある教育を続けてほしいということが私自身の考えとなる。ただ規模が小さくなると、学校での保護者の負担が増えると思う。そのことが恐らく町外から来るといふ人の足かせにもなるし、我々自身もちょっと大変だなと思う部分なので、そこを緩和するような取組を行ってほしいと思っている。

- ・個の力を伸ばすには、どれだけの大人がつくかで決まると思う。今日まで、いろんな資本や教育の理論などを集約して合理化して、いいものを提供したほうがいいと思っていたが、教員の数が減り、きめ細かな指導ができないとなると話は別である。教員を減らさずに、たくさん教員数を維持できる方法をとった方がいい。1人の子どもにどれだけ教員を充て、子どもの多様性やニーズに対応していくほうが個は伸びていくと思う。私の中ですごい大事だと思うのは、本当の多様性というのは、良い部分だけじゃなくて、非常に人間の汚い部分も知る必要があるということ。そのためにはある程度の規模が必要だという考えもある。

- ・あまり人数が減ってしまうと、小規模になりすぎてしまうと逆に子ども達の負担が出てくるのではないかと思った。

- ・自分の子どもの世代が、ここで子育てをしたいかどうかということについてはすごく不安である。そのICT教育など進めている新しい教育は、見た目はすばらしいが、実際にここに住んで子育てをしたい人たちのニーズとのギャップが非常に大きいのではないかと思う。川根本町で子育てをしたい世帯の人たちが、果たして文科省が言ってる教育を望んでいるのかという疑問がある。逆に川根本町で子育てをしたいという人たちは、違う価値観を持っているのではないか思っている。

金太郎あめのように、最先端の教育を川根本町に求めてくるのなら、別にあえてこなくてもいいんじゃないかと思う。個人差が当然あるので、自分のこととしてとらえれば、こういう環境だからこそ、例えば、自然環境の中で生きるためにどうするかっていうことを直接感じながら、育っていくことの重要性を感じる。また、川根高校の敷地内と言えるような場所に「あかいしの郷」という特養があつて、そこに高齢者が住んでいる。その高齢化社会の最先端を行っている町であるからこそ、次の世代の高校生が高齢化という問題を共に感じながら、自分のものとして受けとめながら育っていくような教育現場であることが非常に有意義であると思う。

- ・この話を一番聞いてもらいたいのが、保育園、幼稚園、小学校、中学校の保護者だと思う。会場を色々設け、来てもらえるように、何度も開いていると思うけど、やはり時間が来にくい忙しい時間帯があつて、実際に来れない方も多い。その人たちの意見が一番聞きたいので、学校でPTA総会など集まったときに、そうすれば色々な意見が聞けるチャンスがあると思

う。

川根高校についても、自分の母校なので良いと思うが、高校になると色々な好きなことがあるので、それ以外の高校に行きたいとなる。ただ通学に支障があるため、例えばバスを出してもらって、他地区の高校に行って、野球なら野球など部活を頑張り、練習が終わった後、自宅まで自宅近くまで送ってもらえるようなことはできないか。

- ・やはり同じ同級生の中で切磋琢磨し学ぶものもたくさんある。少ない人数の中で、例えば男女の構成が男児1人、女児4人の学年もあるので、小学校に入学してからどのような関わり合いをしていくのか、親としてはやはり不安があるのではと思う。
- ・すごく今日聞いたことは、授業参観でも見られることで、家庭に大学生と高校生と小学生がいるが、姉の時代にやっていた教員と生徒の一斉授業の時と、一番下の子が行っている子どもたちが討論しながら展開していく授業とではギャップがすごくあって、子ども達主体とでは見えて、全然違うと思った。自由参観も昔は退屈だったが、今は授業参観に行くと、おもしろいと一緒に笑ってしまうような感じで、親が笑うと子どもたちも同じように楽しさを感じていることがわかるので良いと思う。それは、学校の先生たちもすごい努力して、学んだことを生かそうと子どもたちと接していることがすごくわかるので、特色をどう外部へ発信するかが大切だと思う。
- ・これからの教育の適正や理想は小規模なのかもしれないが、やはり子育てしていく親は、世の中に出たときに競争にさらされることから、小さい時、もう小学校入学する時から、競争社会を生き抜いていけるような学力や運動能力を望んで、町に出ていくことを選択しているという現実がある。確かに教育の理想はよく理解できるけど、この地元の人で実際に子育てしてる人たちの判断は別のところにある。
- ・川根本町には、保育園や幼稚園がある。小学校、中学校、高校もある。全部を通しての連携教育ができるのではないかと考えている。そのようなことが出来れば新しい試みで良いのではないかと思う。
- ・県外からも、町以外からも生徒が迎えられている中で、地元の保護者の負担大きいことが一番問題だと思っている。PTA活動など保護者の負担はどのくらいあるのかということが気になる。県外の方、町外の方は、遠くに住んでいるのでPTA役員になると大変だから、町内の保護者にとという形になってしまう。そういった側面も含めて、川根高校は良いところはあるけど、保護者として不安を感じる。
- ・昨年、北地域の音楽発表会と陸上大会がなくなることを聞いて、子ども達がしゅんとなってしまった。RGで大勢が集まって、体育や音楽をやっているというが、どこまでやっているのか、ちょっとまだわからない。
- ・保護者の間も統合してもらいたいという意見を聞いている。PTAや先生の間での話し合い

の場に出てもそういう話が出来ない。統合をとという意見を持つ方が大分いるのではないかと聞いているので、その人たちの意見を出してもらいたい。

- ・東京とかで実施されている移住相談会の時に、川根本町の教育の現状、最先端の教育をPRできれば、移住先として川根本町を選んでもらえると思うので、資料を配布することを検討されたらどうかと思う。
- ・私は、子どもが3人いるのだが。1番末っ子が今2歳で、入学時に2人っていう表の数字が書いてあるところに該当する。おそらくその内の1人は、転勤がある家庭と聞いているので、恐らく1人になる可能性が高いと思っている。いざ1人になってしまったときは、先ほど見た授業ができないと思う。すばらしい授業だったと思うけど、1人では映像で見たような授業はできないし、学校に行っても友達がいない、他学年はいるにしても、普通の授業では先生とマン・ツー・マンになってしまう。そういうことを心配する話が、祖父母を含めた家族の中で話題になっている。学力向上も大切だけど、やはり学校に通う1番の目的として、こういう田舎であるからこそ、友達との生活の中で少ない中でもコミュニケーションを図れる人間になってもらいたいという親としての希望があるので、その辺を1番心配している。どのように対応してもらえるのかと思っている。
- ・これまでの話を聞いていて、こちらで話をする側とそちら側から返ってくる話の内容で温度差をすごく感じる。良い教育を行ってくれているという気持ちと、こんなにも大きな不安があるのにとこの思いをすごく感じてる。自分の子どもも2025年入学で、2人で学校に入学した時、先ほど映像のような意見を出し合う授業ができるのか、2人の間でどのような意見が出てくるのか疑問である。1年生が行っている家庭教育学級を実際にできるのか、運動会も全校27人で何ができるのか結構不安である。競争相手もなく、色々な不安があるけど、それでも統合はしないのか、結構今までも、統合しようという意見を出してるけど、全く反映されていない。
- ・RGをやっているが、月1回やっていて、ちょっと意味があるのかという思いもある。音楽発表会や陸上大会も無くなり、子どもが集まる機会が減っている不安がある。アンケートとかよく来るが、それを提出しても、どのような意見があったのか示してもらえず、結果が返ってこない、アンケートを出す意味があるのか疑問に思っている。統合をしてほしいという意見をアンケートに書いていたので、その気持ちを知ってほしい。今行っている教育が、一人一人向き合ってもらえありがたいが、早い段階で人数が減ってきて競争心がなくなるので、統合をしてほしいと思っている。
- ・もっと幼児教育、幼児をどう育てるかっていうところにもう少し目を向けてもらい、幼稚園でどのような取組をしているかを見ていただきたい。幼児教育の場で、大変良い活動をしていることが伝わり、そこで子育てをしたいというような思いで、若いお母さん方が入って来てくれると良いと思っている。

- ・川根高校の寮にだけお金を掛けるのではなく、川根本町から他の学校に通うのに何か援助が少しあれば、住民票を他の市町に移す子が減るのではないか。川根本町から通う子ども達が住みながら高校に通うための何か援助があれば良いと思う。
- ・小人数がすごく大事だということは、今の生活でも先生方がよく見てくれていて感じていることだけれども、大人数だとある程度まとまってグループに分かれて話し合いをする場面っていうのは設けることは可能だと思う。統合をせずにずっといくという選択肢だけではなく、幾つも案の中で例えば2校ずつ集まるなどの考えも、一つの選択肢ではないかと思う。あとは自分の子どもたちが上がるときに、統合しないなら転出しようとする人もいるのであれば、人数の予想が出ているので、何年には統合をする方向でいるという見通しを示してもらおうと、親も安心して覚悟もでき、入学後の子どもたちの話ができる。そういう話ができると、また子どもたちのRGとかでの過ごし方も変わってくると思う。ある程度の見通しを早めに示してもらえると親としてはすごく安心できるし、もっと小さい子を持つお母さんたちも安心できるのではないかと思う。
- ・今回初めて川根本町の教育の取り組みを色々詳しく聞かせてもらって安心した。今後どうしてもこの子どもが減っていくというのは、どうしても少子化、少子高齢化が1番の問題で、町民の皆さんが1番気にしていることはこの統合というか、どうなっていくのかを心配している。  
 さっきの教育の町の取り組みは非常に良いと思うが、今後統合に関して、役場として具体的な考えがあるのか。300名の学生に対して、60名の教員がいるが、統合してしまうと3分の1になってしまうことを初めて聞いた。先程の教育について皆さんがわかっていないと思う。自分の子どもが入学する時に出てしまうことを見てきた。ちょっと心配になる。
- ・例えば川根高校の魅力とか、そういったものを親がもっと知る必要があると思う。僕自身が余り知る努力も足りないのかもしれないが、もっと知る機会を教育委員会とかで設けていただけるとありがたいとちょっと感じている。今まで川根高校を卒業した子たちがどうなっているか、色々地元の情報では聞くが、もう少し親もわかるようなこういった場があればありがたいと思う。あと、よくPTA総会とかで保護者が集まる機会があるので、そういう場でこういう説明とかもちょっと入れてもらえれば、これない親御さんも中にはいると思うので、そういう場でもこういう機会があれば、さっき流してもらったビデオだけでも見れば、勉強になったなと思ったので、そういうことをよろしくお願ひしたいなと思っている。
- ・事務局で言ってくれたことは、僕らも直接経験された親御さんとかから聞ける機会があればいいと思う。色々なうわさみたいなことは聞くが、体験談などを聞く機会があれば、例えば中学3年生の親とかの説明会のようなものがあって、そういう親御さんからの生の意見を聞ける機会がもっとあればいいと思う。川根高校の卒業生に来てもらって直接話してもらおう機会があれば良いと思う。
- ・英語教育について、私の息子が今、英会話というか英語を身に付けて東京の商社で仕事をし

てる。川根高校の卒業で、野球をやって、それで大学を4年出て、それから留学して1年間勉強して戻って商社に入社した。その息子が英語をしゃべるのであれば日本語をしっかり勉強しておかないと絶対だめだと言っていた。

- ・私がこっちに戻ってこようと最終的に決めたのは、多分ここが好きだったからで、多分1番根っこにあるなと思った。多分、大人になってから、いやいいんだよと言っても、小さいころに刷り込まれたというか、受けた印象はなかなか変えられないと思う。小学校ぐらいの時から、言葉は悪いが、刷り込んでここに根付いてくれる人間をたくさんつくっていく必要があるかなと感じた。
- ・集団活動のスポーツの現状はどのようなものか。人数が少なくてできない所もあると思う。選択肢が少なくなってしまうのでは。私もサッカーをやっていて、中学生とサッカーをやる機会もあるが、今、中中の人数が少なくて試合にも出れないらしくて、僕ら社会人と週1回やるくらいしかない。私も中学校からサッカーをやっていて、かわいそうだなという思いもあるし、自分の子どもがサッカーをやるとは限らないが、大きくなって、同じ場所で小学生もやっているが、かわいそうな気持ちになってしまう。勉強も確かに先生方がたくさん見てくれてわかるんだけど、人数が少ないデメリットもあると思う。今後人数はもちろん減っていく中で、二つに分けたりという段階を踏むのが良いのかと思うところがある。
- ・こういう話し合いつて、聞きに来てくれる人は来るが、本当に聞いてほしい人は来てくれない。なので、学校の参観会とか、今日見たビデオも、こういう改革とかがあってこういう指導を先生がしてくれていることが分かった。たとえば、何か忘れた時に、何で忘れたのか、忘れたことではなく、だからどうしたいのかを先生が聞いてくれたり、見てくれたりしたが、子どもにとっては、「じゃあどうしたいの。」っていう言い方がちょっと冷たいじゃないけれど、そう捉える子はそれをそのまま親に言うので、そうすると、そういう背景を知らないと、親もなんでそんなことを先生が言ったのかという不信感に繋がってしまう。そんなことを耳にしたので、PTAとか会議の時に、今こうやっているんですよ、みたいなことを教えてくれればと思う。
- ・今のSBSのビデオの時に言っていたが、改革をすると反発というか急に変わると受け入れられにくいと思う。授業参観の時や保護者が集まっている時に、このようなことをやっているということが分かれば良いと思う。
- ・コミュニティー・スクールのことなんですけれども、統合だとかこのパターンの中で、コミュニティー・スクールはすごく関わってくると思う。一つにしてしまったらコミュニティーが一つになってしまう。二つだったらコミュニティーは二つエリアができるということですよ。その辺が、すごくマッチングという組み立てに時間がかかるのかなという印象がした。実際にコミュニティー・スクールを映像でしか私は見たことはなくて、実際やってるところに足を入れたことがない。地域の方々が、学校に関わり踏み入れることが出来るという意味合いでは、また新しい文化になるのかという期待はする。

- ・小中一貫と義務教育学校とどちらがいいんでしょうかというように聞いたし、いつのタイミングその前の時には、自分の子どもは小学生なんだけれども、いつ変化が大きいっていうことを、いつから始まるかと、何年後に始まるから、じゃ今度一緒になるよねというものにしていけば、ほかにいかずにここでもうちょっと生活しようかなと、ここで暮らしていこうかなと思う人たちもいるので、その計画段階を早く教えてほしいなということ saying していたお母様。そして教育に至っては、いつから義務教育学校や小中一貫教育をやるのか、どれぐらい準備段階に時間がかかるんですかっていうことを質問されていた人、本当にせっぱ詰まっているのだなという。あと何年と指折り数えていると切実に感じた。
- ・もう川根本町は町というけれども私は村だと思う。そういう小さな村の将来をどうするかということ、教育だけでなく、安心して年老いても生活できる町になるということがもっと大事だと思う。教育の内容をどうするかとか、社会に出たときに、素晴らしい子どもをつくることは大切なんですけど、私は多くは群れの中で育ててほしい。そして、素晴らしいことをつくるそれはそうなんですけど。群れの中で育ててほしい。そして、いろんな経験を学校の中で過ごしてほしい。そういう中で、成長してほしいなというそういう環境を今の子どもたちがもっと良くなる環境にしてほしいなとすごく願っている。
- ・今娘が高校生で、中学生の時人数が8人で、自分以外の7人の子たちのパターンしかわからないままずっとクラス替えも無いので、人間関係をリセットして新たに人間関係を作る経験も無いまま来てしまっている。そういうのを意識しないで、そういう環境の中で自然にやっていけるようなそういう工夫が必要だと思う。人数が変わらないのであれば、授業が終わった後の部活動とかでやって、自分の学校以外の生徒とも触れ合っていくことも必要だと思う。それは小学校でも必要だと思う。授業が終わった後に、自分の興味があることを他の学校の子とも一緒にやることも必要だと思う。
- ・平日の昼間だったので少し少ないと思うんですが、例えば小学校に上がる時に、保育園の段階で同級生が少ないので出てしまうという悪循環がずっと続いているような感じがする。やはり、保育園や幼稚園のうちに、保護者に浸透させてもらって、こういうのを一生懸命町でもアピールしてもらって、それでやってもらおうと、考え方が変わってくるかもしれない。大きいところじゃなくて、こういうところでちゃんとした教育を受けて、大学まで繋げてもらおう、教育してもらおうことができるよということを皆にわかってもらえば良いと思う。今日もここに来る前と後では考え方が全然変わったので、安心してこの町で暮らしていけると思う。
- ・1番最初に見せていただいたビデオの中に、アクティブラーニングというのがあって、すごくいいなと思ったんですけど、私の子が来年入学する時に、4人のところで、どれだけできるのかなと思った。その4人で、意見を言い合っというのをすごく思っていて、今、長女は2年生で14人いるので、中央小学校の今の2年生と、来年入学するのが5人となっているけど、知ってるうえでは4人なので、比べても、大分差があるなと思っている。その4人中で、どれだけのことが出来るのかなと思う。今実際4人とかのクラスの学校があると思う



が、そういうクラスの子ども達がどういう不満というのがあるのかなというのが不安でいる。

- ・やはり当事者になる保護者の方の考えは大事かなと思う。色々川根本町で取り組んでくださるすばらしいことも、やはり保護者の方も実感して、本当に川根本町で子どもを学校にやっ  
て良かったと思える方が増えて、それで、町から出てしまう方がとどまって、それであわよ  
くば他から入ってくる人に、川根本町は良いからおいでと言えるようなことが理想である。  
そのようなところに持って行ってほしいなと思う。今そういう保護者の方から聞く場を設け  
ているので、それは良いことだと思う。
- ・今4つある小学校を一つに集めても1クラス10何人となる。今幼児期の小さい子を持っている  
若い親御さんは先を見て、小学校に上がる前に出ていってしまう。去年なんか近くで見  
ているが、2025年度入学とあるが、4人いても上がる時には0かもしれないし、だからそれ  
をそんなちまちま2つに分けてもまたさらに1つとかにすると、子ども側にしても、どうし  
ても2つの学校を1つにした場合に、対するものというか敵味方ではないけど、4つが1つ  
になるんだったら皆知らない人同士が一緒になるという感覚だけど、向こうの学校とこっち  
の学校が一緒になると、気持ちの上で、ちょっとハードルが高いというか、そういうのもあ  
るじゃないかと思う。だったら最初から、もう地名の子も接岨峡の子も一緒に、せっかく川  
根本町になったので、中川根とか本川根と分けなくて、最初から一緒にしたほうが子どもに  
とって負担が少ないのではないかと思う。
- ・こういう話が出たことは、遅かったけど良かったと思っている。これを示してくれた。道も  
良くなったし、通学の範囲とか距離とかを考えて、規模とかからだとして、最低パターン  
7ぐらいにしてもらいたいと思う。
- ・学びは喜びだと思う。学び合いは喜びということを学校の先生がそれをやってくれればい  
いんですが、その気づかせてもらえるような方法でしてもらえれば良いなと思う。
- ・各保育園を回ったり、子育て支援施設などにも行ってお話をしたら、若いお母さんが出てい  
かずに留まってくれるかもしれない。若い人にもいてもらわないと困ると思う。
- ・今後の子どもの人数を見ていくと、どうもやはり減って行って、このままだと複式は免れな  
いのかなと思う。今度学校を色々な形でくっつけて、全部を1つにしてしまうのは、今少人  
数での良さというのが無くなって普通のところと同じ人数になって、せっかくの少人数で効  
果が出てきたところが無くなってしまう。一人の先生が10人ぐらいを見るのと20人、30人  
を見るのは、目の届き方も違うので変わっていくのだろうなと思う。やはり少人数という形  
は残してほしいけれど、複式のクラスになるのは、できれば無いほうが良いなと思う。な  
ので、一つの学校にしてしまうというのはしてほしくないなと思って、できれば本川根の人  
数と本川根と中川根と分けてしまうと人数が違ってしまおうと思うので、だけど半々という形  
は地区的に見るとどうなんだろうと思ったりもする。なるべく複式学級が出来ない方向で進  
めて行ってほしいなと思う。

- ・最初に話を伺った限りでは義務教育学校が良いのかなと思いつつ、せっかく色々なことをやっているの、挑戦していこうというところも面白いなと思っている。イエナプランとかが出来たら子ども達が幸せではないかなと思う。
- ・こういう川根本町が考えてやってくれているということを、今、小学校に行っている親たちもあまりわかっていないと思う。これから小学校に上がる子どものお母さんたちが知らないと、人数を見ただけで、正直町から出たほうが良いと思ってしまうお父さん、お母さん方がいっぱいいる。話を聞いていても、中学校に上がる時出ようかなと思っている人の話も聞く。保育園で若いお母さんたちはよけいそう思っている人が多く、こういう風に取り組んでいて、川根本町が子どものためにこういう考えでやっていることをもっとわかりやすくイメージしやすい言葉で、これから小学校に上がるお父さん、お母さんに発信してほしいなと思う。
- ・少人数教育の良さによって成長していくかがすごい大事で、ここに住んでいる人は分かっていない。人数が多い学校での成長は違うと思う。ただ、高校生になったら違うところに行こうかなと思っている。
- ・町全体の一般的なお母さんは、少人数の中で不安を覚えるのが一般的だけど、少人数でこそ良い教育ができると思う。
- ・少人数だから、色々な人との社会経験が少ないから心配するという人もいるけど、ある程度の経験があればどこに行っても大丈夫だと思う。
- ・合同体育祭はどうか。中学校同士ではやっていないようで、そういうのをどうにかして、同年代の子ども達でやらせてあげるというのも面白いと思う。川根本町ならではの、そういう集まりをして、同年代の子ども達がこんなにいるんだと思うのも良いのではないかなと思う。
- ・私自身は、複式学級がそこまでデメリットだとは思っていない。
- ・担任の先生と、補助の先生のタックの中で、仲が良くなければ良いクラスが出来ないと思う。一つのクラスの中に先生が二人いて、話が通じていないと目標に向かっていけないから、先生たち二人がタックを組んで、一つのクラスの目標に向かっていくようにしてほしい。
- ・小学校は合併するのが良いと思っている。徳山に保育園が一つと、幼稚園が一つ、上長尾に保育園が一つ、小長井に保育園が一つある。小学校をもし、第一小が本川根のほうに行ったら、徳山の聖母保育園に来る子がいなくなってしまうのではないかなと思う。大変難しい問題だなと思う。
- ・前回参加させていただいたが、その時には参加者の意見と事務局からの意見と乖離があったような気がした。今日の資料を見せていただいて、私の意見も変わったところがある。

- ・課の枠を超えて、今回の意見交換会のようなものを保育園の中で説明していただけたらと思う。私は町内に家を建てたが、建てるタイミングは、子どもが小学校に上がる前に、小学校をどうするかというタイミングで考えたので、ぜひ保育園に通っているお母さん方に対して保育園で説明してほしい。今まで、教育委員会VS保護者的なイメージが強かった。意見を聞いてくれない、やってくれないというのがあったが、実はすごいことをやってくれていたことが理解できて、もしこれが味方となって町外へ発信出来たらすごい大きな発信ができると思う。ぜひ説明をお願いしたい。
- ・保育園に勤務しているが、数年前から、小学校と保育園とで歩み寄っていきましようよという形で投げかけているが、忙しくてなかなか壁が取り除けない状況にある。せっかく小学校で素晴らしい取り組みをしても、保育園のほうまで下りてこなくて、ただ保護者の方は不安で、うちの子は小学校に行ったら男の子一人になってしまうとか、女の子一人になってしまうとかと本当に不安ですと言った時に、小学校でこういう取り組みをしています。なので、安心していってくださいということがはっきりと私たちが言えない状況で、もう少し歩み寄りによって、課とかも違うが、子ども達を扱う同じ人として一緒になってやらなければいけない時が来ていると思う。
- ・そもそも不安なのは教育の質とかの問題ではなく、人がいないから、情報がないから出ていってしまう。こういうことをやるよということを保護者がわからない。取り組みが伝わっていない。小学生になる時に出ると計画している人もいる。そのような方に対しては、教育委員会とか他の課と連携して対策をする必要があると思う。
- ・小学校3年生までここにいたが、出た理由はいじめだった。その時に何度も何度も先生に相談したが、その時、返事が結局1年間もらえなくてもうここではだめだと思った。

島田に出る時にも、親には子どもを置いて行けと言われたが、私はこの子を守るために出ると言って島田に出た。島田の学校は3クラスあったので、もちろんそこでも問題は起きる。仲間外れとか友達との問題は起きるが、1年経つとクラス替えをしてもらえるので、子どもがもう一回新規に頑張ろうという気持ちになる。それが、こういう小さいとこだと、それが無い。先生も神経を使っていかなければならないので大変だと思う。保護者の方が一番思うのは、やはりその子ども同士の人間関係がそうなった時に、独りぼっちになってしまうし、ずっとクラスも変わらないし、そこから抜け出せなくなってしまう。そこが一番の心配で、だから、これだけ色々してくれているとか、教育はこれだけやっているといつて、そうかなんだけど、本当の保護者のこういう小さいところだからという不安はそこだと思う。

これから小学校に上がる人たちの保護者の方の不安を取り除くには、これももちろんそうだし大きいことだと思うが、町全体そういうことにも、そういう不安を取り除けるようなアドバイスしてもらわないと、保護者の方の本当の不安って正直取り除けないと思う。なぜ私がもう一度ここに来ようかなと思ったのかは、たまたま仕事で学校に入らせてもらった時に、先生方がすごい子ども達の話をお身に聞いてくれていて、その時すごくオープンになっていて、保護者の方に情報を出していたので、昔と違うんだと思ってもう一度戻ってこよう

かなと思って帰ってきた。たまたま私はそういうことを知れたからもう一度戻ってきて子どもを育てようと思った。多分これから小学校に上げる保護者の方たちは知らないと思うので、そういうこともきちんとアピールしてほしいと思う。

会長（教育長）：事務局から意見交換会についての参加者意見の抜粋を報告させていただいた。内容的には色々な意見が書かれているのでじっくりとお読みいただきたい。次に二番目の川根本町の物的・人的教育資源を最大限に活かすための教育のあり方についてということで、静岡大学の梅澤先生からご提案の説明をお願いします。

## ②川根本町の物的・人的教育資源を最大限に活かすための教育のあり方について

静岡大学教育学部 梅澤教授より、資料2に沿って説明

・14回意見交換会に出させていただき、親御さんの色々な不安感と、今後どうしてくれるのかという期待感というのをひしひしと感じた。根本的には子どもの数をどう増やすか、これはつい最近マスコミでも報道があったが、今年度は確実に90万人を切ると、つい10年ぐらい前では110万人が100万人を切り、あつという間に90万人を切る状況になっている。なので、川根本町では子ども数が減っている問題は全国どこでも過疎地では起こっている。ただ、川根本町は5年間すごく教育に対して先進的な取り組みを頑張ってきたことがあるから今日私が未来に向かってこういうことをやれるのではないかと提案できている。これがないところでどうするのかと聞かれても力も出てこない。そういう意味では5年間取り組んでいただいた成果の上に私の提案をさせていただきたいと思う。

お手元の資料に、構想案を私案として出させていただいたが、まず、過疎化の進む地域コミュニティにおける「子育て・教育のあり方」の重要性。これは、子育て、教育の機能がコミュニティから無くなってしまくと、コミュニティ自体が存続不可能になってしまふ。特に学校が無くなるとコミュニティの痛みは激しくなってしまうのが調査からわかっている。なので、2014年に、適正配置の手引きを文部科学省が40何年かぶりに改訂したり、地方創生の方向性みたいなものが出ているが、「SDGsアクションプラン2019」というものも出ているが、そういうところを見ると、単に統廃合するのではなく、これから少ないは少ないなりにメリットを活かしデメリットを抑えながらその地域にあった工夫をするようにという方向が示されている。しかも、地方創生とかアクションプランを見ると、それに対しての補助金、国からの補助が用意されている。川根本町のこれからの方向は、そのようなものをうまく活用しながら町で力を付けるというか新しい方向性を工夫していったらどうかと思う。事務局から意見交換会での意見を報告していただいたが、あの中にヒントが隠されている。地域の方が思っているようなことをうまく吸い上げながらやっていくことが重要かなと思っている。なので、まず、地域コミュニティの持続可能なあり方と両立させた「学校の適正配置」この観点が重要かなと思っている。それには、地域の人たちが元気になる。あるいはこうやろうよという内発的な力を引き出しながら教育の機能を再構築する。ということはやはり地域で子育てをしている親御さん、それからこれから若い人たちで子育てをしようと思っている方たちの意見でどのようにしてほしいのかを聴きながら行政をやっていくことが重要かなと思っている。例えば資料第7のパターンで、同規模で行政的に半々にしようすると、コミュニティの存続を考えると機械的にこ

うやりますというの難しいのではないかと思います。それから、重要なのは幼児教育と小学校との接続と連携ということだと思います。小学校は小学校、幼稚園は幼稚園、保育園は保育園というような形の時代から、一緒に連携協力しながら、少なくとも自治体の福祉と教育の連携をして早期に3年プロジェクトを発足させることを提案したいと思う。子育ての不安と学校の不安の解消をセットで考えていく時代なのではないかと思っている。

学校の話だが、小中一貫教育あるいは義務教育学校と多様な公立学校（形態・カリキュラム等）の可能性。今回私も、これからの川根本町の学校でパターンが12あることを改めて見て、昔のような機械的に統合するかしないかという議論ではなくなっているというのがすごく新しい可能性だと思う。なので、川根本町ならではの、高校まであるので、幼・保・小・中・高を結び付けた観点で教育構想を、次期ビジョンで作っていくことが重要かなと思っている。2016から2020まで現在のビジョンになっているので、その実績を踏まえて、過疎化の進む地域コミュニティにおける「子育て・教育のあり方」の重要性を考慮した5年間と、長期の教育改革プラン10年程度でどうするかを考えて工程表を策定したらどうかと考えている。ということで、中期5年を2020からにするか2021からにするかは微妙だが、2020は、今のプランの評価成果を総括し、次期への準備期間と位置付けてやったらどうか。この時期は、パターン2からパターン9までの学校配置ということで、それぞれの資源を生かし、学校の規模、教職員の規模を活かしながら、新しい方向を目指して取り組んでいくという風に考えたらどうかと思う。ここでちょっと注釈が必要だが、この間広島県の教育長さんの講演を聴いていて、広島県福山市はイェナプランを公立で義務教育学校を2年間ぐらい準備期間を置いて創るという風に言っていたが、私はイェナプラン的な教育を川根本町の小中学校で出来ないか、これは教員や学校長がやろうよという合意というかエネルギーがないとできない。それから教育長さんや町長さん、地域の人たちの、それをやってほしいという、一緒にやろうという気持ちがないとできないが、ぜひそれをこの期間で工夫をして、これには大学としても、私としても学生や教職大学院の学生等にも入ってもらって色々と議論したりあるいは工夫しながらやっていけたらなと思った次第です。そういう意味で、過疎化の進む地域コミュニティにおける「子育て・教育のあり方」の重要性を考慮して、本川根地域と中川根地域で、それぞれ幼・保・小・中の連携を進めるということで、そのプロジェクトを発足させて準備をする。あまり、イケイケどんどんでやるのではなく、春先と夏休みとかの時期までにどのようにしていこうかを協議しながらやってみる。これでなければだめだとかという議論ではなく、このようなことが考えるのではないかと方向性を議論しながら、それぞれの学校で試行してみるようにできないかと考えている。一番大事なのは、新学習指導要領で、社会に開かれた教育課程、それから、カリキュラムマネジメントということなんですが、過疎地の複式学級とか複数学年のカリキュラム学びの有効性というのが最近注目されてきている。大学の研究でも、2000年くらいから少人数の小規模学校の研究というのが脚光を浴びてきて、今北海道では非常に多くなっているので、そういうカリキュラムとか学校のマネジメントの研究もやられているので、その辺も参考にしながらやったらどうかと考えている。私としては、学校経営、カリキュラム、教員育成の支援等の観点から「内発的な教育実践が学校のシステム改革に繋がる」枠組みを頭の中で想定しているが、それを川根本町だったら出来るのではないかと考えている。これと、2022年度コミュニティ・スクールの制度化が要請されているので、住

民の方々の意見を聞く機会を設けていき、制度的にビルドインしていったらどうかと思う。なので、2020年度が現改革ビジョン最終年度であるとともに。新改革ビジョンの準備期間とするということで、とりあえず、こういう方向で進めましょうという合意ができるのではないかと思います。ただ一言、先ほどの国の補助制度があるという話だが、国の財政支援、補助金制度の関係で、今の施設面をどういう形で補修したりしていくかという観点からは、行財政とか別の視点があるので、その辺のところも町のほうで詰めていただければと思う。おそらくその先に長期10年の時には、小1校、中1校にしたほうが良いという議論になる可能性も高いと思うが、それまでに足腰をしっかりと作って、又、新しい学校の学びのあり方を、新学習指導要領対応で、21世紀型の新しい公立学校の学びの形態が、ある意味で一番早く過疎地であるがゆえに対応できる、実現していけるのではないかと思います。夢ばかり語っているとされるかもしれないが、川根本町はやってみる価値があるかなと思う。

会 長：スクールクラスターという話をしたが、スクールクラスターとは正に産業クラスターが、例えば企業誘致をしたりうんぬんではなく、内発的ということになる。内発的に中小企業を含めて産業を興していこうということと同じように、スクールクラスターは、内発的に地域から新しい教育を生み出すというそういう考え方を今後はしていかなければいけないと思っている。そういうことをやれるのは小さなところが有利であると思う。

研究会委員長：報告を読んでいて、親御さんの不安感がいっぱいあったが、子ども達はどう思っているのか。案外すごい発想を持っていて、その子ども達にこういう問題を考えてどうしたら良いのか、それこそ、トーマスの千頭駅の事がテレビで取り上げられていたが、子ども達が自分ならではこの川根の地域で考えるというそういう学びを軸に据えても良いのではないかと思った。親が思っているほど子ども達は不安よりも逞しかったりするのではないか。それを教師が支援して成長につなげていったらすごい力になっていくのではないかと読みながら思った。何か意見交換会でちょっと無いのは何かかなと思った時に、子どもとか若者の観点かなと思った。

会 長：意見交換会と梅澤先生の今の提案を含めて、皆さんからご意見を伺いたいと思う。

### ③質疑・意見交換

委 員：川根高校について触れてくれている意見があったが、川根高校の一つの目的に、生徒を集める今の現状の生徒数又はそれ以上という目標があるが、そのために何をやっているかということ、川根高校が他の高校にはないというものがありますよという、他の高校にはない差別化を作っていこうと考えている。例えばその一つは、少人数教育、一クラス10何人から20何人、それだけでも少人数だが、そのような授業の集団というのは他地域の他の高校ならばどの高校でもあることになるが、本校は、更にそのクラスを更に分けて一桁の集団で教えている。それを売りの一つとしている。ほかに、子どもを集めるとかということがあがるが、ここでできるようなこと、他の地域の学校では無いような事を飛びぬけて差別化するようなそういうような発想、それが差別化するとそれが本当に良いかどうか

という意見も出てくるがそれをやらないとアピール点が無くなってしまわないかと思う。そういうことを進めると、イエナプランならイエナプランですべていくというのが大事なかなと思った。

委員：島田市が小中学校の統廃合について、令和3年に北中と第一中、それから湯日小と初倉小、令和6年に、伊久美小、神座小、相賀小、伊太小、第一小を統廃合するよという計画が出ているが、島田の伊久美と神座、相賀を見ると、伊久美は遠いかもしれないが、神座と相賀は近くなって、そう意味でそういう統廃合があるという、ある程度近場だと、子どもさんをスクールバスで運ぶにしても近いので大丈夫かもしれないが、川根本町は、先ほどの意見交換会のご意見で、極論で、接岨の子と地名の子を最初から一緒にしたらどうかという意見があったが、やはりそういう地理的な問題なんかもあって、それからあとは5年間こういう形でRG授業とかICT教育など色々なことをやって、2022年にタブレットを一人一人が使えるようにするようなことも出ていたが、先進的な授業形態をやっている、やはりその物理的に一緒にするという、最終的に、減って来ていて小規模の度を越して少なくなった時にどうするかということだと思うが、今現在は出来るだけ今やっている形態で行けるところまで行って、俗にいうソフトランディング、軽くどこかで合意点を見つけて、先ほど先生の言った小中一貫なんですけどそれぞれのロケーションをそのまま使っていくというような形で行けたらいいなという感じはしていた。ただ、親御さんの意見が色々あるのでその辺を考えていく必要があると思う。今まで5年間やっていた内容がそれほど親御さんに理解されていないのでちょっと悲しかったと思う。やはり説明不足だったのかその辺はどうだったのかなという感じはする。

委員：5年間RG授業をやってきたが、11月のRG授業の時には保護者の方にも一般公開という形で見てくださった方もあったが、実際に見て子ども達が楽しそうに関わっている姿を見て良かったという保護者の方の意見を聞くことが出来たので、ある意味良かったのかなと思った。子どもたち自身も5年間で少しずつ積み上げてきて、RGでなければできないこととかを実感して楽しみにしているところもあるので、その成果を子ども自身が生かせることが多いかなと感じている。ただ、子どもの中には普段と違う環境で学習するということが少し負荷に感じて、良い意味でも負荷になっていることもあるが、実際には起きていると思う。

委員：意見交換会に何回か出させてもらったが、今日報告を聞いていて事務局も大変だったかなと思った。全部出席いただいた梅澤先生も大変だったと思う。参加してくれる方はそれなりに意見をもって来てくれたし、実際に移住をして来た方もあったので有意義な会であったと思う。今聞いていて保護者の不安とか心配を切実に思う。ですから、不安や心配は漠然とした、子どもが少ない、町もあまり活気がないという、シャッターで閉じている商店が多いとかがあって増幅しているのではないかなと思うので、意見交換会を基に、今川根本町で取り組んでいる現状のPRが必要だと思うが、川根本町ならではのこれからの教育を早い時期に町民の皆さんに示していくということを早急にやらなければならないことなのではないかなと思う。そうすれば保護者の不安とか心配が少しは減るのではないかなと思

う。そうすればこれからの見通しも付いていくのではないかと考えている。協議会とか研究会の位置づけも大変重要だなと思っている。

研究会委員長：大学の学生が、川根本町で実習を行った学生で、島根に帰って教員をやることになっている生徒がいる。イエナプランの実践という本がつい最近出版されたので、学校の先生や校長先生も読んで、これはやっても良いかな、出来るかなみたいな、どんなイメージなのかなと考えていただきたいと思う。もう一つは、きのくに子どもの村学園が和歌山にあるが、理想の教育は公立学校ではできないと言って私学で作って山の中でやっているが、1学年10人くらいで、異学年で1年から6年までやっているが、その辺のカリキュラムでやるような時代になっているので、川根本町で小規模の学校とか複式学級の新しいイメージでやると言ったらかえって今の教員が貴重な資源になってくる。そういう意味では学校の先生がそれをやろうという風になったら、それこそすぐに成功するわけではないが、一緒に創っていく過程をやることによって川根本町は成長すると思う。学校としても良くなっていくというのが私のイメージなので、ぜひそれをどう読むのか、うちではこれは出来ないからこうしようなども含めて検討するのに値するのではないかと考える。だから教育長さんがずっとイエナプランと言っていて、そんな外国のものを持ってきてどうかと思ったが、文部科学省そして広島県はそれを目玉にしてモデルで作ろうとしているかは、川根本町はもう普通にできますよというふうなことが出来たらすごいことで、公立学校の改革としては差異化が出来るのかなと思った。是非読んでいただければと思う。

会長：イエナプランについては、リヒテルズ直子さんがオランダの方と結婚して世界各地を回っていたが旦那さんの仕事の関係でオランダに戻った時に、子ども達はオランダの教育を全く知らなかった、英語しかできなかったその中で、オランダの教育がどういうことをやっているかを見て実際に経験した中で書かれた本で、オランダでは日本と違って様々な教育をやっている。イエナプラン自身も、100 イエナプラン教育をしている学校があれば100のイエナプランの教育の仕方があるということで、日本と違って弾力的というかヨーロッパはもともと教育というのは色々な種類があるもので、日本と違って上から与えられるものではなかったので色々やられていて注目を浴びていることになる。ですから例えば少人数の中でということになると3学年を一束にするとかという形の教育が行われていることになる。かつてスイスも財政難の時に1年生から6年生まで一束にした教育が行われていた。その教育というのは非常に優れた教育だということで、OECDで評価されている。だから必ずしも、例えば同じ学年の子ども達ではなく異学年の集団で学ぶ。これを文部科学省で言っている。異学年で学ぶこと、それから個別最適化ということが言われているので、その辺が今後の教育で重要になるのではないかと考える。梅澤先生が出来るのは川根本町と言われているという考え方があるので、そのためには先ほどスクールクラスターというのは、単純に学校の中の資源だけではなく、学校地域の資源、大学の資源も生かしてやりながらという考え方となる。

研究会委員長：自前とか一つの学校で工夫してそれぞれに学校のカリキュラムとか学びを創っていくという時代に入っていて、一斉に与えられた中でやっていくという時代ではなくな



っていく。そこが魅力でもあるし大変だけど楽しみでもあることだと思う。

委員：幼稚園の保護者代表として会議に参加しているが小学校の子どもを持つ者でもあるが、今の幼稚園の現状を考えると、人数が極端に減っていて、それでも温かい園でとても良い教育をしてもらっているなど思っている。今この話だと、教育は教育で管轄が教育委員会で、その下、小学校から下の世代のお子さんの事を考えることも必要だと思う。そこからまず考えていかないといけないのではないかと思う。この「川根本町で学ぼう」という資料を作っていたのだが、これだと小学生や中学生のような学生さんのことがメインで、川根本町で子育てしようというような気にならないのではないかと思うので、これよりも下のお子さんや結婚される前の人や結婚して間もない人達のことも考えて呼び込みとかしていかないとならないのではないかと思う。

会長：自然にしていってもどんどん減っていくので、少なくなるのをある程度持続可能な教育をするためには、安定的な数にしていかなければならないと思う。そうすると、川根本町の現状を考えたら減ることは間違いないので、そうすると、安定的にするためにはどうするかといったら、外からの移住する人を入れるしかないと思う。

研究会委員長：藤枝市で子育てすれば最大 50 万円支援金が出ますみたいなことを川根本町でやっているのか。

委員：教育委員会の人と子育て担当の人とタックを組んで握手をしながらやっていってもらわないとだめだと思う。教育だけのことになっている。下の世代のことを見ていると本当に片手程度になっていってしまうので、そういうところも見てもらいたいと思う。教育だけという観点も良いかもしれないが、その辺りも見えていかなければいけないのではないかと思う。

研究会委員長：意見交換会でも、学校の意見交換会と書いてあるが、子育ての意見交換会がないのではないかと思う。以前、人口減少時代の関係資料を見たが、静岡県の中で子育て世代の母親が一番減る町は川根本町で、半分以上いなくなってしまうという資料を見たので、先ほどの意見をしっかりと入れていかないと、自然に任せたらどんどん減ってしまうという危機意識を持っていかないといけないと思っている。

事務局：この間さゆり幼稚園の園長先生からも幼稚園と小学校、幼稚園の良さを分かってもらうようなことを町としてやっていただきたいというような意見もいただいた。ただ、今実際にやれていないので、作るものとしてはこういうものしか作れないというもどかしさがある。その中で、課を超えて、今幼稚園、保育園が 4 園あるので、これは小中学校版で、この中に中高連携のことは入れてあるので、今度は子育てのもう少し下の時期の 4 園の特徴的な写真を提供いただいて、これと同じようなものを作って、そこに、幼・保・小の繋がりの部分の魅力を入れたものを作りたいなという思いではいる。その手始めとして、1 月に移住相談会が東京であるので、うちで今作れるものとして作ってあるので、今いただ

いた意見のところは、この報告の中にたくさん詰め込まれていて、それがすごく伝わってきたので、今後いただいた意見をそれぞれの園長先生と相談させてもらいながら町としてどういうものを作っていくのか、どういうアピールが出来るかはこれから進めていきたい。それがたくさん意見をいただいた意味だと思うし、それを私たちがやらなければいけないことだと感じている。

会 長：スクールクラスターというのは、小学校とか中学校だけではなく幼・保の時代から高校までを併せた考え方をするのがスクールクラスターの考え方になる。特にインクルーシブ教育というのは、障がいを持つ子も持たない子も幼・保の時代から高校までを通して教育資源を組み合わせしていくという考え方になる。

研究会委員長：意見交換会をやる時にも意見を言ったが、どちらかというと、こういうことをやっていますよ知ってくださいよというのが強調されているが、今の親御さんがどんな問題で子育てとかで悩んでいてという時には、カフェとかラウンド形式で自然に話し合っ、その話し合いの成果を出してもらったほうがずっと実りあるものになっていって、これだとなんか一方的にこんなに素晴らしいことを川根本町でやっていますよということだけをただ流しているだけになっていて、それに意見を言っても、なかなか住民の人や親御さんが考えていることを引き出すことにならないので、最近はラウンド形式とかで自由に討論してもらってその中でまとめたものを出してもらおうとか応答する。そのような形に変わらなないと、行政が一方的にこれすごいでしょといった啓発型が一般的になっているがそれだとなかなかいい知恵も出てこないと思う。大学なんか最近課題を出すと学生に話し合いをさせて発表させる。しかも司会もさせて仕切らせるように変わっているので、今までのように教えて意見交換するみたいなではなくどう考えるかというところに必要な知識、技法を与えていくような学びにしていくことが、まさしく学校の学びとこういうところでどうやるかというのが同じようなものになると思う。今聞いていて、川根本町はこれだけやっていますよと、子育て期の親御さんがそれを知りたいという人もあるかもしれないがその辺のところもうまく調整して工夫したほうが良いのではないかと思う。

委 員：教育に関わる意見交換会の中でも、多くの皆さんのありのままの意見を聞いて、取り除けないのはやはりどんどん子どもが減っていく。そのような中で、これからの学校教育や子育てをどのようにしていくのかが非常に心配であるということだと思う。幼稚園でも町外に出ていってしまい、川根本町に入学する子どもがいないような現状となっている。小さな幼稚園でも6人は確かに藤枝とか島田に出ていくという現状がある。幼稚園が良いから通わせたいということで、来年の3月まで島田と藤枝からさゆり幼稚園に毎日通っている子どももいる。今幼稚園の代表として参加いただいている委員さんから、こういう子育て中のお母さんがこういう場で意見を述べられるそういう雰囲気が大変ありがたいと思っている。随分と川根本町も色々な多様性を持って対応くださるということで大変ありがたいと思っている。梅澤先生のこの前の、川根本町の地域・学校活性化の構想案を見せていただき、その中で、「川根本町ならではの幼・保・小・中から高校を結び付けたトータルな視点で教育構想を策定する」このことが大変ありがたいなと思っていて、前々からそ

のことを話をしていたりしてありがたいことだと思っている。そこがやはり意見交換会でもあったように不安の底にあるのは子どもが減っていくことだが、一人二人こういうところで育てたいというような若いお母さんもこちらに引っ越してきていることを考えると、全然希望がないという風にも考えられないので、問題はこの地域に住んで子どもが一人でも二人でも増えていくということを希望を持って、幼稚園では3歳から入園となるので、幼稚園がどうなるかわからない状況にあるが、幼児教育は非常に大切で、世界中でそういうことが言われているので頑張っていきたいと思っているので、幼児教育を取り上げていただいていることをありがたいと思っている。

委員：意見交換会に自分も参加させていただいてその時にも意見が出たが、そのほかのところのことも事務局からの報告を聞くと、やはりどれも切実で、小学校のお子さんを持っている方はそのところと未来に関わるところ、先ほど言っていたように保育園や幼稚園のお子さんを持っている方は先を見たり不安に思っていることが伝わってきて、小学校中学校に行くとRGだとか色々やっていることに対する不安だとか疑問などが出て、すごく保護者の方がこういう疑問とか不安を持っているのが伝わってきた。どれもかなえられるようなあり方検討会として今後進めていかなければと思っていて、どれもかなえてやりたいけどどれもかなえることは非常に厳しいなというのがある。それは皆さんも感じていらっしゃると思うが、大事なことは丁寧な説明をすることかなと思う。子どもの未来とか川根本町の未来で子どもが住みやすい町ということがあるが、何を優先するかを考えたら、今中学校にいますので、子どもにどんな力を付けていったらいいかを考えていくが、中学校として大事にしていかなければいけないなと思ったのが、少人数に対する不安をたくさん持っている方がいて、少人数でやるメリットというのは非常に高いというか子ども達に目が届くことだと思う。以前大規模校にいて一クラス30何人かいて、先生が一生懸命やっているが目が届かなかったり、そこで学力の差が出てしまったり、意欲がない子どもになってしまったり、寝てしまっている子とかある中で、ここの強みとしては目が届くし教育委員会の配慮で支援員さんを付けていただいたりして、一クラスの人数が少ないうえに手厚くしてくださっていて学習に向かう姿勢はあるなと感じている。ただ、複式だとかそこまでいくと問題よりも、メリットもあるけどデメリットも考えていかなければいけないなと思うし、丁寧に説明しているがRGについても、一緒にやっているのであれば一緒にしてしまえば良いのではというような意見を聞く。普段丁寧にやっているけど、他の集団になった時にどのようなことを主張できるのかとか関わるとかコミュニケーションを取れるのか、RGの授業って非常に有効だなと思った。少し前に富山県の氷見市に行かせてもらった時に、義務教育学校を見させていただいたが、まず小学校に行ったら中学校の英語の先生が授業をやっている、非常に小学生が元気で、しっかりとあいさつが出来ていて良いなと思った。6年生のところに行ったら音楽の専科の先生が教えていたらすごい歌声が大きくて、人数も20何人かはいたが一人の音量が大きくて、専門家が教えると違うなと思った。その後中学校に行ったら数学の授業をやっている、数学の専科の先生がいて小学校6年生の先生が二人目の先生として入っていて、シーンとしていて、その後疑問に思いながら研修会に出た時に、小学校では元気だが中学校に行くとおとなしくなってしまうのはなぜかという疑問点を話した時に、川根本町は違うぞと思った。うちの中一でも元気なので、

何かなと思った時に、授業の質とかというよりもRGが始まってから時間が経っている中で、授業中に黙っていないというような雰囲気があるのではないかなと私が思うだけで根拠は分からないが、やっていることが子ども達の力になっていることを実感している。それは研究したわけではないのでそこに因果関係があるかは分からないが、そのような取り組みをやっていることが良さであること、RGって良いものであるけど、毎回やったら、同じ規模にしたら目が届かない手が届かないことがあってという不安もあり、競争とか切磋琢磨という部分では分からないが、色々な意見が切実なんですけど、今後今やっている良さを活かしたことを踏まえて検討していかなければいけないと思った。

委員：生みの苦しみというか、私は教育の現場も知らないし、本業が農業ですし、非常に10年15年のこれだけの教育の変化の中で先生方も教育委員会も大変だと思う。これからもやはり、梅澤先生も言うように構想を見るとそれぞれの皆さんが知恵を出していく中で時間というのはもう少し検討させていただけたらと思う。ある程度移行とか、最終的に長期的に見たということはあるんですが、長期的とは2025年の18名ということが一つのスケジュールとかある程度のことを教えていただけたらと思う。先程の意見交換もそうですがどのようなことを応答したのかということを知りたいと思う。それと私たちのようにある程度分からないながら出してもらうと非常に勉強はするが、ある程度全体的な盛り上がりの中でやはり時間との戦いがあるとしたら、携わってきた人の責任も重くなると思うので、私も6年前からアンケートを取ったりしたらどうかと言ったが、教育委員会としたらアンケートは取らないと言いながら内容をよく見ていくとなんかどこかでアンケートを取ったのかなと、この間課長のお話は何回かの座談会の中で他の課ではないかというのが非常に保護者の方がアンケートを取ったような形に取れるのでその辺も含めてもう少し先送りとか申し送りではなく切羽詰まったところの幼児教育から見えるので、もう少し私は時間をかけていけばいいと思うが、スケジュールということを知りたいながら、今後これがどのようなスケジュールで行くのかを含めてここの梅澤先生の構想案はあるが教育というのは大変私たちが言えるのは厳しいと思うが、教えていただければいただくほど難しいなというのが私の実感です。感想にもならないが、トータル的に考えるという難しさを改めて思っている。私は教育委員会の考えが保護者の方や現場の校長先生や先生方が聞きたいということ、保護者にもう少しアンケートを取れたらいいなと思っている。ですけども、やっていただきながら、ここの地域の特徴を生かしたいという教育も分かっているが、まだまだ私分からないというのが正直なところとなる。

委員：皆さんが話してくれたように難しいなと思って聞いていた。将来的には卒業した後をどういう目線で見るとか、例えば大学に行って外で活躍して、ここでの教育が良かったですよと言って広めてもらうのか、もしくは高校を出て専門学校や大学でもよいが地元に戻ってきてテレワークみたいにネットを使った個人の事業をしながら生きていくようなことで、ここで働いて子孫を残すようなことをしていくのかを考えながら、幼児教育から高校までのプランを作成すれば良いのかなと思った。

委員：意見交換会に出させていただいて、その時にも色々なパターンを見た時に教員の数が減

るのではないかというお話があって、そのことで皆さん不安になられたという感じを受けた。その教員の数が減るのではないかという不安なことと川根本町でやっているRGであったりタブレットを使った教育であるとかそういうこの良さを知ることと、切実に自分の子どもの同学年の子が本当にいないんだということと一緒に考えることがとても難しく、何を優先して考えたらよいのかとても迷われている。その中で、教員が減るのも不安だし、そのような教育をやってくれてありがたいな、でもという部分の意見もあって迷われているのではないかという印象を受けた。保育園の保護者の方も、本当に自分の子どもの同級生が少ないんだという人と、そこそこいるんだという人の考えの重さが違う。そういうところで、本当に少ない方は自分の身を切られるくらいの思いでどうしたらいいのか可哀そうという思いがあったので、少しのところでも温度差もあって本当に難しい問題なんだと思う。どれもかなえるのは難しいという意見で、「それではどこ。」という思いで、保護者の方の話を書くことが多い立場とすると、やはりそういう不安を書く機会が多いのが現状となっている。三ツ星保育園は4歳5歳というのは30対1というのがあるが、全然その人数には足りていないが、3歳4歳5歳のクラスを混合するというのはおかげさまで今までは無かった。一番少ないところで7人くらいいて10人前後いたりしていたが、今の3歳児は5人しかいない。14人の年長さんになる子、5人の年中さんになる子、その下に11人の3歳になる子が来年になった時に、5人のクラスが単独でいられるかが、保育士の人数もあるし、来年0歳児とか1歳とかの人数が多いということもあって、そういうところからすると4歳の子ども達を単独でいられるかが無理になってきているかなというのが現状となっている。その子たちが学校に行った時に、中央小が2人しかいないという状況なので、その辺の切実な不安があるのも現実かなと思っている。

委員：私もこういう会だったり話し合いに参加させていただいて町のほうでこういう教育を積んでいくということを知ったというところもあるので、保護者の方々はそういったところを分かっている保護者の方がいるわけではないと思う。一番保護者で分かっているのは、本当に人数が少なくなっていてこれから学校がどうなっていくんだろうという不安のほうが多いと思う。今私の子ども達の人数がそこそこいるので良いが、本当に自分の子どもが1人しかいなくなってしまう可能性があるお母さんとかはその時にどうするというのではなくて、早いうちからどうなるのかという情報だったりとかを入れてもらえたらいいなということを知っていたりしたので、こういった場に出てきた意見とかも保護者のほうに伝わるといってこういう風にしていくってしてくれるんだよという情報を伝えていくことが必要だと思った。

委員：私も前の委員さんと同意見で、意見交換会の意見の中にも出てきたが、見通しが持てないから不安という意見がいくつかあったと思う。今教育についてとか子ども達についてこういう風に考えているんだという情報を途中でも、結論でなくても、こういうところに向かっていくという仮にそういうのもあって、今はこういう段階というのを多くの人が必要があるなという風に感じている。そこでそれを知ってそこまで待てない、じゃあ川根本町にはいられないと出ていってしまう人がいるとしたら、それは仕方がないと言ったら語弊があるかもしれないが、でもこうやって考えてくれているんだしたらここに

ようとか、すごく考えてくれていて魅力あるなと思って、それが一つの引き留めるではないが、私はよそから嫁に来て出ていこうという発想はなかったが、やはりそれは自分には3人子ども達がいてそれぞれある程度人数がいたというのも一つの大きな理由だったと思う。人数が少ないという、一番上の娘が生まれて時に、女の子の同級生が3人しかいなくて、女子の3人ってすごく奇数で大丈夫なのかなと不安に思ったことを今思い出したが、途中で女の子の同級生が引っ越してきてくれて今は4人なので、一人引っ越してくれたという安心感が以前あったなということ思い出した。そういうことってすごく些細なことと思うかもしれないが、人数とか、女子一人とか男子一人とかというのが不安要素であると思う。

研究会委員長：今の問題は行政のほうの措置として、その学年だけそういう状態で上のほうはまだ複式ではない人数がいる時に、下のそれを経過措置とか移行措置みたいな形でそこだけ一緒にするみたいなことが出来ないのかどうか。よく廃校になるのは最後の子どもがいなくなった時になるけど、それまでは学校としては存続しているみたいな形態を取っているが、一人しかいないのに学校全体を廃校としないために置いとくのではなく、準備している段階の移行段階なので、そこはバスを一人の為だけに出すのかという問題も出てくるが、学校の学年にそれぞれの学年に対応したくくりとしてできないのかということを検討してもらってよいか。

会 長：特定の学年だけを一つにするということか。そこは学区の問題とかがある。

研究会委員長：例えば、学校選択みたいに、こことここはどこに行っても良いみたいな選択制特認校みたいな形にして、その学年のその子はいっぱいいるところが良いからと言ってそっちに行きますみたいな、学校選択制とか。

会 長：その学校の、特定の学校だけは学年が0になってしまう。

研究会委員長：そこはしょうがないとか。将来は統合するなり、6年生とかいっぱいいるのに全部統合するといった議論ではなくてという時間差攻撃みたいな形で自然に統合せざるを得ないような形にする。

会 長：その辺の問題になると、イエナ教育みたいな異学年集団みたいな形で考えるのも一つだと思う。そちらのほうの方がより現実的だと思う。

研究会委員長：私もイエナプラン的に異学年で不安になることはありませんよというのが一番考えていることだが、私も大丈夫だと言えだけの実証をしているわけではないので。

事務局：やり方は色々なんですけど、ただ一つの学年、例えば4つの学校があって、他の3つの学校のある学年を全部一つにして全てを一つの学校に持ってくるとした時に、3つの学校の教員数は減る。そういう問題があるので、教育効果を考えて、今のRGを拡大しながらあ

る一定部分を連携校うんぬんとか教育課程特例校とかにすると色々な形で、その割合を多くしていくということはできると思う。それから、プラスアルファこれからテレビ会議システムが進んでいくので、熊本のほうの学校では、年間の6割の授業をテレビ会議で大きい学校と小さい学校と一緒にやっているような学校があるので、こういったやり方が子ども達にとって良いのかという議論は、今色々なご意見をいただいた視点の中で、これまでできていなかった部分も沢山有るので、そこについては一步踏み出していかないと、せつかくこういう不安な気持ちを出してくださった方々に答えることが出来ないで、そのあり方というのは、梅澤先生も示して下さってあるのでその中で何がやっていけるかというのは学校の先生と相談しながら、保育園、幼稚園と相談しながら、高校さんと相談しながら全体像というのは作っていかないといけないと思っている。それが、ぐずぐず2年も3年もかかるのでは絶対いけないと思っているので、スピード感を持って見通しを持ってスケジュールを示して少しでも不安が解消していける方向というのを探して示していきたいと思っている。すべてに答えられないという意見もあったが、とても全部聞いていくと学校がいくつあっても足りないで、でもその中である不安というのは解消する方向でいい形を示す事によっていくのではないかなと思う。それから、残ってくれる、外から入って来てくれるそういう流れを作りたいという思いも皆さんと同じようにあるので、そういうものを一緒になって作っていければという思いではいる。

研究会委員長：具体的に考える必要があると思う。一人しかいないというのをどうするのかも含めて。

委員：意見交換会の記録の中にもあるが、学校で今後のあり方についての話題をもっとしてもらいたいとかというご意見もあるが、そのような現状の中で学校が特にそういう話題を提供したりそういう場を持ったりというのはなかなかできないことなので、意見交換会が始まるよということを知った時にありがたいなということで、私自身もなかなか時間が取れなかったのが最終回に参加させていただいたが、その中で、参加して驚いたのが12のパターンがあるとその場で聞いたが、一方で教育行政として色々今後のことを考えていてくれてありがたいなと感じた。いずれにしろ無責任な考えかもしれないが、学校を預かる校長としては基本的に町の教育行政の方針に従って動くしかないで、そのために何のために動くか私自身として心掛けているのは、子ども達のより良い学び。それと共に、自分がこの地元の人間でもあるので、先生方にも子ども達にも言っているのは、地元を愛するとか郷土を思うところを育てるということ、私が思っているのは、ここに残る子、ここに残っている子が故郷を愛するだとか子どもを愛するだけではない。仮に外に出てもそれこそ外から川根本町のことを思うそういう子が育つように学校としては成功しているんだよというようなことを話している。いずれにしろ、先ほどさゆり幼稚園の先生もおっしゃったが、5年後6年後のことではなくて3年後の問題なので、そういう中で持続可能な教育をどうするかを早期に考えていかないと、保護者の方々、これに参加された皆さんの不安が一番大きいと思っていると読み取ったので、今後の方向性について示す必要があるのかなと感じた。ただその際に、教育者として言わせてもらいたいのは、最終的に子どもにとってどうかという視点を大人も踏まえたいという議論にしていかないとまずいのかなと

思っている。具体的に言うと、学校が無くなると教員の数が減る。地元の先生は嫌がると思う。それは、働く場所が無くなる。遠くに通わなければならなくなる。だから学校を無くすなという大人の論理で考えるのではなく、もし、子どもの論理でそれが良ければそうすればいいんであって、そういったところを踏まえて考えて、子どもにとってどうかという視点を、これは小学生、中学生だけではなく、幼児期の子どもも含めてそういう議論をしていただければと思っている。

委員：意見交換会に参加させていただいたが、先ほどから話題になっている親御さんの心配というのがそこでも出ていました。報告の書類を見せていただいてもだいぶ出ています。私は子どもの心配については、人の究極はどんな職業に就いて、その職業を通じてどのように社会に貢献するか、そんな思いを持っています。そのことを考えると、多くの親御さんは自分の子どもがそこにたどり着けるかどうかそんな心配を持っているのだと思います。少人数で教育させたらそこまでいかないとそんな思いがあると思われれます。私はどういう形で子ども達が学んでも同じだと思っている。大人数のクラスで学んでも少人数のクラスで学んでも同じだと思う。子どもが自己の実現をするにはどう自己管理できるかそういう人に成長するかという思いを持っているので、そういう思いを考えると、川根本町が大人数の教育が出来るはずもないし、だから少人数教育が良いと思う。そこをどうしていくか、そこを子ども達がどう考えているのか。それと、確かに委員会は周知をするのが下手だと思う。もう少し外に自慢しても良いと思う。川根本町の教育がどういうものかをアピールしていくのも大切で、そういうことをどんどんやってください。川根高校も今の差別化の取り組みで私は良いと思う。私の子どもは3人も川根高校を卒業して何とかやってくれているので良かったんじゃないかなと思う。自己実現は自己管理、そのことを理解し行動できる子どもになってほしいと私は考えている。

委員：今まで自分の思いで小規模とかRGが良いと思っていたが、親御さんの意見を聞くと、色々な意見があって、結論って難しいなと思ったのが本音です。ただ、子ども達の発表を見ると、マイクも無くて大きな声で発表する姿勢が好きで、自分の主張というか、小さくてもすごいと褒めたくなる。何に対しても一生懸命で、だから親が子どもの進路を決めるのではなく、子どもがもし高校に行く時に、川根高校ではなくて色々な高校に行きたいと言ったら、その時に親が進めるべきであって、子どもの道を親がここは少人数だから街に行かなければいけないというのは私は反対で、今まで自分は子どもが好きなようにしてきて、子どもがああしたい、こうしたいと言った時にはそのようにさせた。それが今どこにでも行けるといった糧になっていると思う。だから親が決めないで、子どもが少人数だからダメとかできないとかはないと思う。親がもしそう思うのなら、今色々な情報があるからそういうものを子どもに教えてやる、こういうところに行ってみないかとか、自分から行ってみたいのなら行かせてみれば良いと思う。子どもの道を親が決めるのではなく、子どもの道を親が後押ししてあげるそういうのがこの小さい地域の中で出来ると思う。やはり子どもが成長した発表を見るたびにすごいと思う。子どもが川根本町を良くしたいとか、子ども達がどうしたら川根本町に来てくれるのかというのを見ると嬉しくなってしまう。皆がマイナス思考ではなくて、たとえ半歩でも良いので、自分が出来ることを外に発信し



ていくそれが大事なのではないかと思う。ただ親御さんの気持ちが分からないわけではない。自分が子育ての時にはある程度子ども達もいたし、成長してくれてくれたから、結論は最後の最後にといい思いもある。でも親御さんの気持ちも大事だなと思う。教育には結論はないと思う。その子がどう生きるかが全てだと思う。外で有名になってくれても嬉しい。川根本町に住まなくても成功すればよいと思う。衰退してしまっても、日本中が少人数になっているから、子どもたちの生きる力というか自分で自立できる力を付けてもらえたら良いのではないかと思う。地域の方の力を借りて育てていけたらと思う。

研究会副委員長：色々な保護者の方のご意見を聞きながら、15年前に保育園が統合された時に保護者会の会長をやっていたが、その時にはこんなに丁寧に意見交換会というのをしてくれなくて、1回目に行って意見を言って、2回目には結論が出ていた。結論ありきの行政の姿勢があつて憤りを感じた。その時に比べると、今回非常に丁寧に意見を聴取してくださって、自分が保護者としてここにも意見を聞いていただけるという機会がたくさんあつてありがたいと思うだろうなと思った。丁寧に進めてくださっていることはありがたいと思う。先ほど他の委員さんが大人数でも少人数でも同じだということをお話されたが、私もまったく同感で、大人数であっても頑張る子もいるし頑張れない子もいる。少人数であっても頑張る子もいるし頑張れない子もいる。結局、自立と共生とよく教育界では言われるが、自立が出来ていないというのはその子どものせいではなく周りの大人の関わりのせいだなと思う。ですので、子どもたち一人一人がどこに行っても一人でも大人数でも頑張れるという自立のそういう風な子ども達を育てていきたいなということを思つて日々勤めている。中々理想は高く現実はどうかということで、今は来年度の教育課程の研究などもしているが、今回の色々な保護者や地域の方のご意見を読ませていただいて、学校の中で少しでもこういう不安とか要望に応えられるような何かしらをしていきたいなと強く感じている。

会長：意見交換会での意見を読んでいただいて本日は議論を行った。今後協議会と研究会を1回ずつくらい計画させていただきたいと考えているため、そこである程度の方向性を出したいと思つているのでよろしくお願ひしたい。今日はここで閉会とする。お疲れ様でした。

午後9時00分閉会